

1998年4月2日

新会社設立2年目を迎え ノバルティスファーマ(株)ライザー社長、 統合の成功を強調

ノバルティスファーマ株式会社のペドロ・ライザー社長は、大澤副社長、大橋専務とともに4月2日記者懇談会を開催し、チバとサンドの統合による新会社設立後の一年をふりかえり、医薬品市場が非常に困難な状況の中、売上高は僅かに減少したものの、同社の主要治療領域における市場占有率は維持した旨を発表しました。

新会社ノバルティスファーマ(株)は、スイスに本部を置く親会社のチバガイギーとサンドが合併し、ノバルティスとなったため、日本では昨年4月1日に設立されたもので、この一年間に基本的な業務、ならびに事業所の統合を完了しました。

統合による不都合を最小限にとどめるために、ノバルティスファーマ(株)では医薬情報を提供するMRに2つのラインを採用し、顧客ニーズに対応できるよう努めてきました。そして今年4月1日にこの経験を活かした新しい営業体制を発足させました。新営業体制はエリア制チーム制ならびに複数担当制を柱に、より地域に密着するとともに、より専門性の高い情報提供活動を行なうことを目的としたものです。

1997年のノバルティスファーマ(株)の業績は、第1四半期は統合前の2つの企業の業績を合算したものに、その後の新会社の売り上げを合計したもので、総売り上げは1,275億円、これは前年比3%減となりました。しかしながらノバルティスファーマ(株)の製品が関連する薬効領域の市場は、前年比4.5%減少するなか、ノバルティスファーマ(株)では市場占有率を維持しました。(1996年：13.4%、1997年：13.5%)。売上減は昨年4月の薬価改定と医療費負担増による9月以降の患者数の減少がその要因としてあげられます。

1998年の展望については、4月からの薬価改定など製薬業界を取り巻く環境は依然としてきびしいものがありますが、ノバルティスファーマ(株)としては、昨年7月に抗真菌薬「ラミシール液」を、そして9月に「ラミシール錠」を成功裡に上市するこ

とができ、また閉経後乳癌治療剤「アフエマ」および骨吸収抑制剤「アレディア」の売り上げも急速に伸び、2月に上市した制吐剤「ナボバン」の将来への期待という明るい材料もあります。さらに今年上市予定の高コレステロール血症治療薬「ローコール」が業績向上に貢献することが期待されています。また、中・長期的には循環器、悪性腫瘍、アルツハイマー型痴呆など主要薬効領域においてトップ3に入ることを目標としています。

ノバルティス ファーマ グループは日本における研究開発に長期的な投資を行うことにコミットしており、日本はグループの総売り上げのおよそ11%を占める重要な市場です。

ノバルティス ファーマ(株)の全社員数は2,700人です。本社は東京都港区西麻布にあり、日本全国に12の支店と52の営業拠点を置いています。生産工場は篠山と埼玉にあり、研究所は宝塚(主に基礎研究)と筑波(前臨床研究)にあります。この2カ所の研究所は協力してグループの世界研究開発ネットワークと有機的につながり、新薬の開発に際し、日本の顧客のニーズが充分反映されるよう努力を重ねています。

ライザー社長はまた、今年新たな人事諸制度をスタートさせ、さらに高業績企業確立へ向けて、人材育成に積極的に取り組み、新生ノバルティス ファーマ株式会社の基礎固めを完成する旨も発表しました。

以上

お問い合わせ先

ノバルティス ファーマ株式会社
広報グループ・渡辺 / 喜多
TEL: 03-3797-8027
FAX: 03-3797-4367